

平成11年2月(1999年) No. 398

## ”旅の映像” いつも悩む 脚本構想

会長 合原一夫

このところ誘われるままに旅をする機会が増えたが、溜まったビデオテープを前になかなか編集に着手できないでいる。勤めの関係で時間が足りないこともあるが、どうまとめたらよいか脚本構成の方針が決まらない要因が大きい。東京の児島範昭さんの映像を見ていると、同じところに旅をしたのにどうしてあのような映像表現ができるのかと、我ながら平凡な記録風しかできない自作を思ってしまう。結局は「感性」の問題だと結論である。感性のある方の作風をマネしたところで、所詮はひとりよがりの何を云いたいのかワケの分からないものになってしまうのがオチである。表現方法の参考にはしてもやはり自分の作品は自分で考える外ない。

私の場合はこうである。同行の人に記念に差し上げる作品は、できるだけ同行の人を撮影しておき、特に楽しそうなカットをひろっておいて、大体旅の順序につないで長くなってもよいから(30~40分)手軽にまとめてしまう。変に小細工しないほうが喜ばれる。

一方例会に持ってくるような一般向けの場合が問題である。まずテープの内容を記録することから始まって、大まかにブロック分けしてみる。何を中心(山場)に据えるか、ねらいをどこに絞るか、これがうまくまとまると半ば成功だが、これがなかなか絞りきれない。次にトップシーンはどうするか、旅はロケハンなしの一発勝負だけに事前に資料を集めて調べるといってもなかなか難しい。結局、帰ってきてから構想を練る場合が多い。言えることは早起きして撮ろう、という原則。日の出や早朝の付近の表情はトップシーンになりやすく話の展開がスムーズに行き易いということ。そして夕陽や夜のシーンもあればラストシーンに使えることがある。カットを長め目に撮っておくことも必要だが、ラストはストップモーションで終わるという手もある。ラストシーンでは言いたかったこの結論や感想を語るとともに、余韻を大切にしたい、等々が私の場合の旅の映像のまとめ方である。

## 2月例会のお知らせ

2月例会は27日(第4土曜日)午後6時より阿倍野市民学習センターで開催します。いつものように大勢の会員さんに集まってもらって楽しくやりましょう。お待ちしております。作品も遠慮なくどうぞ。

### 1月例会レポート

今月は何時もの会議室が確保できずに特別会議室(値段が高い)で豪華な椅子に座っての開催でした。見学者1名を含めて総勢24名の賑やかな、そして和気藹々とした中での例会でした。司会は合原さん、書記は有村さん、デッキ係は渡辺さん、それに今月から新たに奥さんにも加わって頂き、受付を増池さんをお願いして会を進行しました。

◆出席者：合原、有村、前田、関、奥、森、今井、江村、松本、増池、渡辺、森口、安居 安居夫人、金子、那須、中尾、森下、岡本、藤原、宮崎、岩井、山口、末岡(見学者)の皆さん。(敬称略)

### ◆上映作品

#### 1) 酒蔵のある風景(伏見) 松本 昭さん 3分39秒

京都伏見の酒どころを訪ねて酒蔵のある風景を的確なカメラワークで美しく描いておられます。電車の走る所と駅が出てきますが蔵と蔵のカットの間に唐突に出ます。場所の説明でしたらいっそタイトルの前のイントロに使ったら良いのではないかと思いました。司会者のご指摘のように音楽がモダンジャズではなくて、フュージョン系のやわらかい音楽でも良いように思いました。

#### 2) ある日の大阪城 有村 博さん 9分54秒

平成9年の2月、大修理の完成間近い天守閣を中心に、その後何回か撮影を重ねて作ったものです。今昔物語的な語りなのでタイトルを変えるようご指摘がありました。またナレーションの部分のBGMの音量を下げるようとのことでした。

#### 3) 観心寺 森 保信さん 8分15秒

殆どが三脚を構えてがっちり撮った固定カットの連続です。初めに楠木正成の銅像が出て、タイトルが観心寺と出ますと、これはこのお寺の紹介映画と誰しも思います。所が中身は全く違って見ている人が困惑します。やってはいけないと私達が先輩から教えられた往復ズームが2回出てきますが、作者を知らない人が見たら初心者と間違われて損だと思いました。要は美しい映像作品として構成するのか、紹介映画にするのか、どちらかに徹して構成のやり直しをされると良くなるのでは、と思いました。

4) 美しき天然 那須 典彦さん 9分50秒

デジタル記録になってから、作者が北海道から九州まで旅行して撮り貯めた美しい自然の映像を島倉千代子の唄にあわせて編集した見事な歌唱ビデオでした。歌詞にあわせて画をはめ込んでゆくので前後の関連のないカットの連続になるのは致し方ないのですが、音楽のテンポにのせるにはカットの中で絶えず動いているものがあるか、カメラを動かしたカットを利用するかの方が良いように思いました。2、3カットの入れ替えをされると尚更良くなるように思いました。

5) プロのこだわり 安居 利次、良枝さん 8分

毎日放送が平野の松村さんを取材にきて、テレビで3分間放映するのに8時間もかけて撮影した模様を横からカメラで追いかけてご夫婦で初めて共作された作品です。仲間内で見ると分にはこれで良いと思いますが、他府県の人たちが見る場合には「大阪市内の平野町の映像博物館を自称される松村さん」とまで紹介が必要でしょうし、「白のマスクワーク部分がテレビの放映部分です」と上映の前に作者の言われた事が作品の中で表現される必要もあるように思いました。大勢の人達が知恵を絞って作るプロの商業映像と、何もかも一人でやって工夫するアマチュア映像とは全く次元の違うものだと改めて感じました。

6) 十日戒 江村 一郎さん 3分20秒

今宮戒の雑踏の中を作者の独特なカメラアイで歩き撮りされた作品です。同じ高さからの視線ばかりで少々単調になってしまいました。三脚にのせたカメラを高くかかげて俯瞰撮影を試みるとか、もっと福娘のアップを入れるとか工夫があれば良くなるのになあ・・・と思いました。

7) 雪の金閣 森口 吉正さん 5分40秒

「2、3年前の大雪の日にHi-8で撮った記録です」と作者。ここは三脚を持ってるだけで監視の人が後から付いてくる位ですから三脚は無理としても、アップ画面がほしかった、現地音がない方がよかった等のご指摘がありました。雪景色は全体に少し露出をあげ気味にした方が華やいだ現場の雰囲気により出せるように思いました。

8) 風と共に舞 金子 博泰さん 4分35秒

枯葉が風に舞っている姿を撮影されました。ゴミが舞う所は外した方が良いでしょう。せめて風船だったらロマンチックで良かったのにとの声がありました。思い付きで撮っただけでは無理で、場所を変えて洗濯物が風に舞う様や旗がゆれる所など、色々工夫して撮り足しして再編集し、又見せてください。タイトルの「舞」は「舞う」とか「舞い」とか送り仮名を付けるのが普通のように思えるのですが・・・。

9) 神戸ルミナリエ 奥 宏さん 5分40秒

三脚を使う所は使い、現場の雰囲気をよく出した構成になっていました。震災の鎮魂を後の方で唐突に語っても前半に伏線がないので訴求力がありません。その上ナレーションが現場の音が高く聞き辛かったのが残念です。また終りが尻切れですから、何処か高い所からの俯瞰画面でもあれば少し長いカットで余韻を残して「終」マークを出すようにすると良くなるように思いました。

10) 終極 (テレシネ)

関 剛さん

7分

ご自分のデジタルカメラを持ち込んで上映を始めましたが、音がどうしても出ませんので中止になりました。

11) 愛しき亡霊者たち

末岡 健司さん (見学)

8分

作者は今回初めて見学にみえられた方で、会員さんではありませんので論評は致しません。悪しからずご了承ください。

以上で例会を終り、2次会は喫茶店と居酒屋に別れて楽しみました。

(今月の講評担当・有村 博)

■新年会、今年も盛会でした

去る1月17日(日)の夜、さと法善寺店で行いましたOMC恒例の新年会には、24名の多くの方の出席を得て、和気あいあいに行われました。例会だけではなく、こうした集まりも会員同志の交流に大いに有意義なことだと思っております。ご参加のみなさん、有り難うございました。

■第4回の日本を縦断する映像発表会の運営にご協力を

来る2月20日(第3土曜日)午後1時より開催します上記大阪発表会は、いつもの通り阿倍野市民学習センター講堂で行いますが、椅子並べなど会場設営にご協力いただける方は10時半頃までに会場へお集まり下さるようお願いします。今回は終映が6時40分頃と思われませんが、見応えのある作品もそろっております。最後までご観賞いただき、後方付けの方もよろしく願いいたします。

■OMC会報400号記念号に感想文を募集します

次号は400号という記念すべき号となります。一口に400号といましても長い長い歴史を秘めたOMCの歴史でもあります。エピソードその他ニュース的なものの原稿をお寄せいただきたいと思います。400字以内程度に纏めて2月一杯くらいまでをお願いいたします。薄謝としてデジタルテープ1本かS-VHSテープ1本を進呈いたします。

■安居利次さんが「名古屋ビデオコンテスト」に入賞

今年から始まった全国コンの「名古屋ビデオコンテスト」に安居利次さんが「最澄と空海」を応募され、見事に入賞されました。おめでとうございます。コンテストに出品することは腕試しになり目標にもなります。今年もいろいろなコンテストがあります。挑戦してみたいですか。

(合原一夫記)